

コシヒカリにおける1等米生産のための籾数と登熟歩合の目標値

農業総合研究所

要旨

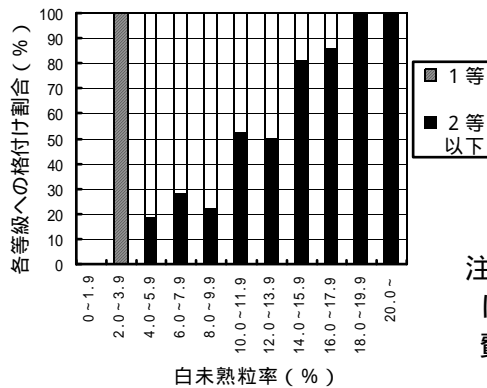
コシヒカリにおいて、白未熟粒が原因で2等に格落ちさせないためには、白未熟粒率を9%以下に抑制する必要がある。そのためには、幼穂形成期の生育量を一定(草丈×莖数×葉色[SPAD値]/10,000が100)以上確保した上で、籾数を33,000粒/m²以下に抑制し、登熟歩合を84%以上とする必要がある。

成果の概要

白未熟粒率が10%以上となると、1等から格落ちする割合が急増し、半数以上が2等以下となる(図1)。このことから、白未熟粒が原因で2等以下に格落ちしないためには、白未熟粒率を10%未満に抑える必要がある。

白未熟粒率は、登熟歩合と高い負の相関関係にあり、登熟歩合が低いほど白未熟粒が増加する(図2)。白未熟粒率を9%以下(安全を見込んだ目標値)に抑えるためには、登熟歩合が84%以上となることが望ましい。

登熟歩合は、籾数が多くなるほど低下する(図3)。84%以上の登熟歩合を得るには、籾数を33,000粒/m²以下に抑制する必要がある。ただし、幼穂形成期までの生育量が小さすぎる場合(草丈×莖数×葉色[SPAD値]/10,000 < 100)は、籾数が33,000粒/m²以下でも登熟歩合が低くなる傾向がある。



注)白未熟粒は、静岡製機品質判定機(RS-2000)により判別した。等級格付けは、近畿農政局消費・安全部地域第三課に依頼した。

図1 白未熟粒率と検査等級の関係

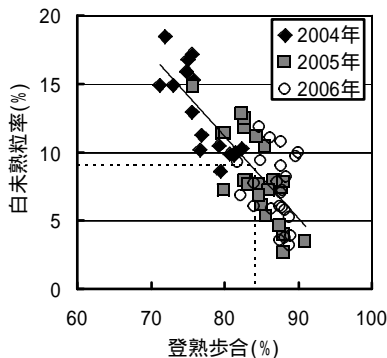


図2 登熟歩合と白未熟粒率の関係

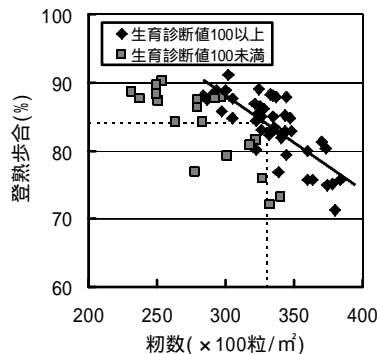


図3 籾数と登熟歩合の関係

注)生育診断値は、草丈×m²当たり莖数×葉色(SPAD値)/10,000

係